

平成27年3月9日

「南海トラフ巨大地震に備える！！」パネル展

～東日本大震災から4年、震災を教訓に高速道路等が果たす役割～

3月11日で東日本大震災から4年になります。

徳島においては、近い将来に発生するとされている南海トラフの巨大地震への懸念が高まっている中、四国横断自動車道や阿南安芸自動車道等の整備が進められているとともに、震災の教訓を踏まえ、高速道路区域への津波避難場所設置に向けた取り組みも行われております。

こうした取り組みを紹介し、震災の記録や教訓を次世代へと伝えていくため、徳島河川国道事務所では、徳島県及び徳島県内沿岸市町と協力して、「『南海トラフ巨大地震に備える！！』パネル展」を下記の日程にて行います。

■開催場所及び開催期間

開催場所	開催期間	備考
松茂町総合会館（2階ロビー） （松茂町役場庁舎の西隣）	H27.3.10（火）～3.15（日）9:00～21:00	
北島町役場（1階ロビー）	H27.3.17（火）～3.23（月）8:30～17:00	土日除く

※今後、徳島県内沿岸市町にて順次開催していく予定です。

■展示物（別紙）

- ①東日本大震災、南海トラフ巨大地震、高速道路等の役割を紹介するパネル
- ②東日本大震災の津波により被災した道路附属物等

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所
徳島県、松茂町、北島町

* 本施策は、四国圏広域地方計画、「No. 5圏域の連携による発展に向けた地域力向上プロジェクト」、「No. 6防災力向上プロジェクト」の取組みに関連します。

【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所		
副所長（道路） 秋山 慎吾（あきやま しんご）	TEL : 088-654-2211	
○ 道路調査第一課長 藤田 裕士（ふじた ゆうじ）	TEL : 088-654-9612	
徳島県 県土整備部 道路局		
高規格道路課長 神野 忠（かんの ただし）	TEL : 088-621-2678	
		○主な問い合わせ先


■ 展示物の例

① 東日本大震災、南海トラフ巨大地震、高速道路等の役割を紹介するパネル

■ 東日本大震災の被害の状況

「命の道」 道路が避難路・迂回路として機能

高台にある釜石山田道路が避難路となり、鶴住居小学校・釜石東中学校(岩手県)の児童・生徒約570人は、その日のうちに避難。さらに、この釜石山田道路は迂回路として人や物資の移動に利用され、地域の孤立を回避しました。



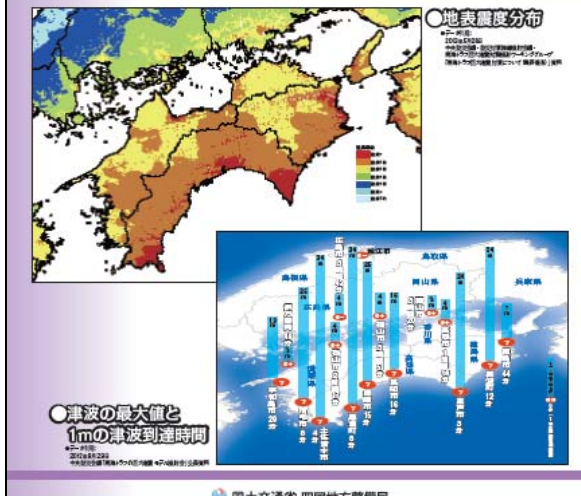
岩手県釜石市～山田町
三陸縦貫自動車道
釜石山田道路

国土交通省 四国地方整備局

■ 南海トラフ巨大地震

巨大な地震・津波

巨大な地震・津波が発生。四国の95市町村のうち58市町村で震度7以上の揺れが予測されています。また太平洋沿岸部の市町村では、最大津波高が30mを超える津波の襲来が予測されています。



● 地震震度分布

● 津波の最大値と1mの津波到達時間

国土交通省 四国地方整備局

高速道路区域への津波避難場所設置に向けた取り組み 【徳島県】

沿岸部の市町には、「津波避難困難地域」が多数存在

本県では、東日本大震災以前より、高速道路のり面が津波避難場所として有効であると着目し、機会ある毎に政策提言を実施

H23.5 【政策提言】
「津波避難場所を占用許可施設」として道路法施行令に明記すること

H23.8 提言を具現化する独自の取り組み

H25.4 道路法施行令の改正が実現

H26.2 この取り組みをさらに加速

効果

- 住民の安全・安心
- 津波避難困難地域の解消
- 津波避難場所設置に伴う費用負担軽減

約4,100人の津波避難場所を確保

「助かる命を助ける」という理念

◆ 道路が持つ付加価値

◆ 道路はつながってこそ効果を発揮

地域防災力の向上!

本線の整備促進を!!



徳島自動車道(鳴門JCT)徳島IC

平成27年3月4日開通

浸水深(m)

10.0 ~
5.0 ~ 10.0
4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

富吉地区 600人収容

米津地区 800人収容

中村地区 350人収容

太郎八須地区 900人収容

松茂PA背後地 630人

長岸地区 210人収容

大幸地区 450人収容

段岡地区 200人収容

徳島県津波浸水想定(H24.10.31)

②東日本大震災の津波により被災した道路附属物等



補助標識「通学路」



小学校の時計



小型標識「距離標」



視線誘導標